



いちようっ子

学校教育目標

強 くー自信をもって心身ともに鍛える子
正しくー深く考え、進んで学ぶ子
美しくー思いやりがあり、感動する子

10月12日に関東地方を直撃した台風19号では、埼玉県においても大きな被害があり、こんなに文明や文化が発達しても、自然の驚異には、太刀打ちできないということを痛感させられました。多くの場所で、未だ避難生活を送られている方がいらっしゃいます。一日も早い復興をお祈りいたしております。



躰と仕付け

主幹教諭 藤原 瑞穂

躰という漢字は、中国から伝えられた漢字ではなく、日本で考案された、いわゆる「国字」です。峠、凧（なぎ）、働、畑、辻などもこれらの仲間だと言われています。

この「躰」という漢字は、「身」を「美」と書き、「身なりを美しく整える」と解釈できます。広辞苑では、「躰：子どもなどに礼儀作法を教える身につけさせること。また、身についた礼儀作法。」とあり、日本人にとって「躰」とは、人として、身を正しく美しく整えるもの、ひいては、心を美しく正すものという意味に通じます。確かに、きちんとした身なりで、しっかりとした礼儀作法が身に付いている人からは、心の美しさを感じます。そしてこの礼儀作法は、一朝一夕に身に付くものではなく、長い時間をかけて、家庭で丁寧に身につけられた結果、身に付くものです。



「仕付け糸」とは、洋裁でも和裁でも、仮縫いをする時に、細い糸で型を整えるときに使う糸のことで、この「仕付け糸」を使つての仮縫いがいい加減だと、立派な製品は仕上がりにません。

また、「仕付け糸」に太くて丈夫な糸を使うと出来上がった時、布地に穴が空いてしまい良い製品にはなりません。細い糸で、まんべんなく丁寧にかけることが大切です。そして、製品が出来上がった時に「仕付け糸」は取りはずします。いつまでも製品についているわけではありません。

そう考えていくと、子どもへの「躰」も、この「仕付け糸」と同じ意味をもつように思います。

お子さんに、乳幼児期から、家族みんなであらゆる場面のひとつひとつに、気を配って丁寧に「仕付け糸」をかけてきたことと思います。

一方、この「仕付け糸」をはずすのは、はずしても型が崩れる心配がなくなり、しっかりと形を保てるようになった時です。子どもの場合でいうと礼儀作法や善悪の判断力が身に付き、自らのことを律することができるようになったときということになるでしょうか。家族という「仕付け糸」があるうちに、子ども自身が自ら本縫いの丈夫な糸でしっかりと縫える（心身を正しく整える）ようになることが大切です。

そして、子どもをしっかりと自立・自律させるために、周囲の大人が、丁寧に時間をかけて、何度も繰り返し、正しいことを教え、間違いを正し、子ども自身が自分の身をしっかりと支えられるような「躰」が理想かなと思います。

折しも11月は、12日「育児の日」、20日「家族の日」、22日「いい夫婦の日」、23日「勤労感謝の日」と、「家族への感謝」をテーマにした記念日が多くあります。

家族で、「人とのつながり」や「家族の絆」、「家族への感謝」を考える機会になるといいですね。

